

第1学年公民科（現代社会）学習指導案

指導者(社会領域専攻) ○○○○

(指導担当教員 ○○○○)

1. 日時 平成21年○月○日(○曜) 第○校時 (○○:○○~○○:○○)
2. 学年・組 第1学年○組 計○名
3. 場所 第1学年○組 教室
4. 単元名 地域紛争と人種・民族問題（難民問題を考える）
5. 単元の目標

(関心・意欲)

- ・難民問題について、その原因を理解し、打開策を積極的に考えようとする。

(思考・判断)

- ・難民が発生する原因が考察できる。

(技能・表現)

- ・難民問題に対して、主体的にかかわっていけるきっかけがつかうことができる。

(知識・理解)

- ・難民とはどのような人々をさすのか理解できる。
- ・難民問題に対して、解決を図ろうとしている国際機関の役割を理解する。

6. 単元について

①教材観

難民とは、「政治的な理由（民族、宗教、党派、派閥、政治的信条）から迫害を受け、生命の危険から自由になるために、祖国を脱出する人が難民である」（『政治学事典』から引用）とされる。この際、大量の脱出者を難民とよび、個人や家族の場合は亡命者とよばれる。近年は、経済難民だけでなく温暖化による被害で島国や標高の低い土地に住めなくなった人々を環境難民ともよぶ。これらいろいろな難民がいるが、難民の地位に関する条約（難民条約）で保護の対象としているのは、政治的理由による難民のみである。しかし UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）が認定している援助対象者(庇護希望者、国内避難民、帰還民、無国籍者も含む)は、1920万人にもものぼっている。また、外務省の資料(2003年)には、2470万人、『世界国勢図会』には、広い意味での難民数を3280万人、狭い意味での難民数を1000万人としている。一方、教科書『高等学校 現代社会』pp.158-159)では、「難民の地域別割合の推移」には難民数は2075万人(2005年)となっている。このように、数字が異なるのは、「難民」の定義が異なるからである。したがって、定義が異なれば数字も異なってくることとなる。しかし、いずれにせよ「難民問題」が随時世界中で刻々と変化しているのには変わりはない。

また、難民問題は日本とも無縁ではないが、これまでの難民の受入数は1987年が6人(申請数48人)、1990年が2人(申請数32人)と、90年代以前は1桁が続いていた。このことは、言葉や文化の壁が大きいこともあるが、難民鎖国という点は否めない。2000年でようやく22人(申請数216人)、2003年で10人(申請数336人)、2005年は46人(申請数384人)であり、この年の諸外国の受入数(アメリカ28420人、カナダ10730人、ノルウェー1630人等)と比較するとかなり少ないことがわかる。

そこで、本単元では、このような人たちを生み出す原因である地域紛争や政治的対立などを理解させ、それらの知識を活用し、その解決と共生をめざして自らの意見を形成できることをねらいとしている。

②生徒観

生徒は、「難民」という言葉を一度はTVや雑誌などを通して耳にしたことがあるだろう。しかし、「難民」の定義を知っている生徒は少ないと考えられる。したがって、先入観をもって「難民」をとらえている生徒が多いであろう。また、難民と関係する「紛争」についても、その現状に関心をよせている生徒も少ない。また、日本と「難民」との関係について意識している生徒も皆無である。このように、日ごろ生徒は、難民ということ意識せずに生活しているといえる。

さらに、難民が生まれてくる要因について考えられる生徒も少ないであろうし、その原因の一つである国際紛争についても詳しく知っている生徒は数少ないと考える。また、このような、国際問題について、既習の「国際機関」とのつながりまで意識できる生徒も多くはないであろう。しかし、様々な国際機関を知識的には多くの生徒が知っている。

社会科のみならず、自分の問題ではなく、もっと大きな問題について、主体的に取り組んでいこうとする生徒は、少しずつ増加している（それは、「エコ活動」などの社会的な取り組みかが盛んだからであろう）。しかし、自分に興味があるものまでにしか波及できていないのが事実でもある。

③指導観

まず、難民についての定義を理解させた上で、教科書のグラフにより、ここ10年で700万人近くの難民が減少していることや、難民の過半数がアジア、アフリカ地域で閉めているが、先進地域でも難民問題は無縁ではないことを、白地図を利用し、世界の紛争地域を記入させることなどから、理解させたい。正確な数字や情報は、UNHCRの公式HP (<http://www.unhcr.or.jp>)に掲載されているので随時利用させたい。また、2006年に発生した新たな難民(イラク:120万人、エリトリア:9万5千人、ソマリア:6万8千人、スーダン:5万7千人(『世界国勢図会 07-08』から引用)を示し、その背景にある戦争、紛争などについてふれる。特に、情報が乏しく世界最悪の人道危機という状況になっているスーダン、ダルフル紛争の背景を理解させたい。また、難民条約については、「人間問題の国際的展開」や「国際法の意義と種類」などの単元で既習の事項であるが、改めて「難民」とは何かということを確認した上で、教科書に記載されている「難民の地域別割合の推移」という図を通して、地域別の変化についても説明を加える。

さらに、アフガニスタンという個別の地域をとりあげ、難民数の推移を説明する(『世界難民白書 2000』を利用)。この人数の変化と、資料集(『最新社会資料集 2006』)の記述を並行して説明すると効果的である。例えば、資料集には「アフガニスタン問題」として「1973年、クーデターにより共和制、これに対して宗教者らの反発が強い…1979年、ソ連が政権を守るため軍事介入、1989年アフガニスタン内戦泥沼化、ソ連撤退、1996年タリバンが政権樹立を宣言、2001年アメリカで同時多発テロ発生、ビンラディンを擁護するタリバンにアメリカが空爆」というような経緯が説明されており、国内の政情の不安さ、紛争の激化と難民数の相関を読み取らせることができるためである。

また「難民問題」について、UNHCRが製作したDVDを視聴させることにより、より現実感を持たせようとする。また、他団体や他機関の補助教材、補助資料や出前講座などを利用すれば生徒の理解を深めさせることができると考える。DVDを視聴する際、ワークシート(後掲)を活用して主要な論点を書き取らすようにしている。結果的に、「難民問題の解決に必要なことは何でしょう(問5)」という問いで「難民についてただ「かわいそう」だと思うのではなく、自分にできることを積極的にやりたい」「自分なりに難民について調べて考えてみる」「新聞やテレビのニュースに気を

つけたり、「難民についての雑誌を読みたい」などの積極的な意見の記述が生徒から出てくるような指導を心がける必要がある。

このように、この授業では、「難民」を生み出す原因である、地域紛争や政治的対立などを理解させ、それらの知識を活用し、その解決と共生をめざして自らの意見を形成させたい。

7. 指導計画（全6時間）

- 第1次 国際社会と国際法・・・1時間
- 第2次 国際社会と集団安全保障体制・・・1時間
- 第3次 国際連合の役割と課題・・・1時間
- 第4次 国際社会の動き・・・1時間
- 第5次 核兵器の廃絶と軍縮問題・・・1時間
- 第6次 地域紛争と人種・民族問題・・・1時間（本時 1／1）

8. 本時の学習

①本時の目標

- ・難民はどのような人々をさすのか、またその発生の原因が理解できる。
- ・難民問題に対してより関心を持つことができ、主体的に関わっていこうとする意欲が高まる。
- ・難民に対して国際的な支援組織のはたらきを理解できる。
- ・難民問題の解決に必要な事項を考察できる。

②本時の展開

○主なる指示・発問 ■評価

区分	学習活動と内容 (予想される生徒の反応)	指導上の留意点・支援・評価 (教師の活動)	準備物・資料等
導入 8分	<p>1. 本時の学習内容を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;">「難民」について考えよう</div> <p>2. 世界に難民がどれぐらいいるか推測する。 ・世界の人口は約66億人（2007年）であることから等により考える。</p> <p>3. 難民がどのような人をさすのかを考える。 ・既習の「難民条約」や経験などから考える。 ・（問）を考えることによって、「難民」のイメージを想定する。</p>	<p>・本時の学習内容を伝える。</p> <p>○「難民はいま、世界にどれくらいいるのでしょうか。」 ・難しい場合は、次の選択肢を示す。 1. 1億人, 2. 五千万人, 3. 1千万人, 4. 五百万人</p> <p>○「難民とはどのような人をさすのでしょうか。」 ・難民は次のような人をさす。 ①害などの被災を受けた人たち ②生活苦のため母国で暮らせない人たち ③政治的理由で母国に住むのが危険な人たち ④ダライ・ラマのように、チベットに住めずインドに住まざるをえない個人</p>	世界国勢図会

		<p>⑤クルド族のように、イラクやトルコによって迫害を受けている少数民族</p> <p>■世界的な規模で「難民」と呼ばれている人たちがどれくらいいるのか、また、国内避難民、亡命者、移民などの区別が理解できたか。</p>	
展開1 12分	<p style="text-align: center;">「難民」と「紛争」の関係について考えよう</p> <p>4. 「難民」と「紛争」の関係について考える。</p> <p>「中東やアフリカです。」 「先進国でも民族紛争が存在しています。」</p> <p>・白地図に板書した国の位置を着色する。 「紛争地域と難民の発生国とは重なります。」</p>	<p>○「難民」と「紛争」の関係について考えてみよう。」</p> <p>○「白地図に教科書を見て紛争地域を記入しましょう。」</p> <p>・主な原因などにも言及もする。</p> <p>○「どのような地域で紛争がおおいでしょうか？」</p> <p>・難民発生国を多い順で板書する。</p> <p>○板書した国の位置を着色させる。</p> <p>○「紛争地域と難民の発生国とはどのような関係がありますか？」</p>	<p>世界白地図</p> <p>世界国勢図会</p>
展開2 25分	<p style="text-align: center;">「難民」の現状について考えよう</p> <p>5. 難民の現状について考える。</p> <p>・アフガニスタンでの難民数の変化を通して、何が難民を発生させているのか考える。</p> <p>・現在はどうなっているのか予測する。</p> <p>・DVDを視聴する。</p> <p>・DVDの視聴を通して、難民の現在の姿に接する。</p> <p>・このような人たちを支える国際機関であるUNHCRはたらきを知る。</p> <p>・公的機関だけでなく、各国のさまざまなNGOが難民をはじめとする、国際社会問題にかかわっていることを知る。</p> <p>・ワークシートの設問に答える。</p> <p>6. 難民問題の解決にあたって必要なこと</p>	<p>○「難民の現状について考えよう。」</p> <p>・アフガニスタンでの「難民」数を歴史的に示す。</p> <p>○「UNHCR制作のDVDをみて、難民の現状を知ろう。」</p> <p>・DVDを見せる。『Global View 2005』(UNHCR制作 19分)</p> <p>○ワークシートを配り、設問に答えさせる。</p> <p>・まとめとして効果的である。</p> <p>■難民に対して国際的な支援組織のはたらきが理解できたか。</p> <p>○「難民問題の解決にあたって必要なことは</p>	<p>世界難民白書</p> <p>DVD</p> <p>ワークシート</p>

	<p>は何かについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを他人と交流する。(交流から、他の異なる視点があることを知る)。 	<p>何か」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士で発表させ、自分と同じ意見かどうか、また他人が難民問題をどう考えているのか意見や提案を交流させる。 ・ここで、日本の難民政策についてもふれる(難民受け入れ人数が諸外国と比較しても少ない)。 ・何人かを指名し、「難民問題の解決に必要なことは何か」という問いの答えを発表させる。 ■難民はどのような人々をさすのか、またその発生の原因が理解できたか。 	
<p>まとめ 5分</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 今後どのように「難民問題」に取り組めばよいでしょう。 </div> <p>7. 今後どのように自分として「難民問題」に取り組むかを考える。</p> <p>「アフガニスタンの現在を調べてみるとよい。」</p> <p>「日本の難民認定数を知って、何が私たちの社会の課題なのか考えるとよい。」</p> <p>・次時の予告を聞く。</p>	<p>○今後どのように「難民問題」に取り組むかを考えさせる。</p> <p>○「今後どのように「難民問題」に取り組めばよいでしょうか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを回収する(後日添削して返却)。 ■難民問題に対してより関心を持つことができ、主体的に関わっていこうとする意欲が高まったか。 <p>・次時の予告をする。</p>	

③評価(の観点と方法)

- ・ 難民とはどういう人たちをさすのかが理解できたか。
- ・ 難民問題の原因について考察できたか。
- ・ 難民に対して国際的な支援組織のはたらきが理解できたか。
- ・ 難民問題の解決に必要な事項を考察できたか。また、地球に生きる一員として主体的にかかわっていこうという気持ちを持つことができたか。

④板書計画

難民問題

難民とは

難民発生国・地域			(2006年)
アフガニスタン	210.7	万人	
イラク	145.1		
スーダン	68.6		
ソマリア	46.4		
コンゴ	40.2		
ブルンジ	39.6		
ベトナム	37.4		
パレスチナ	33.4		

アフガニスタンの難民数			
50.2	万人	1979年	
172.8		1980年	
387.7		1981年	
507.3		1986年	
632.5		1990年	
267.6		1995年	
256.2		1999年	
369.5		2001年	

国連のはたらきーUNHCR (国連難民高等弁務官事務所) 1951年設置
緒方貞子 (1990~2000年 高等弁務官)

私たちにできること, 私たちの課題

⑤参考資料

猪口孝他編(2004)『政治学事典』, 弘文堂

矢野恒太郎記念会他編(2005)『世界国勢図会』, 矢野恒太郎記念会

UNHCR 編(2001)『世界難民白書 2000』, 時事通信社

第一学習社編集部(2006)『最新現代社会資料集 2006』, 第一学習社

UNHCR 制作『Global View 2005』(DVD)

ほか

⑥ワークシート

難民問題を考えるーUNHCRの活動をとあしてー

() 組 () 番 ()

1. 難民とはどのような人をさすのでしょうか
2. 難民が発生する原因は何ですか
3. 世界全体で難民はどれくらいいるのでしょうか。また多い地域はどこですか
4. UNHCRは難民に対してどんな活動をしていますか
5. 難民問題の解決に必要なことは何でしょうか